



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第12号 (H23. 7. 29)

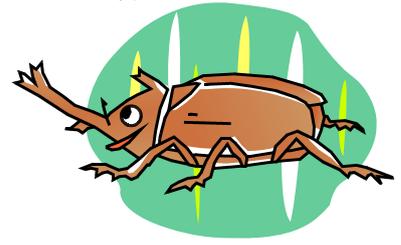
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



サマーセミナー合宿！

7月21日から22日にかけて、保護者主催のサマーセミナー合宿を行いました。1・2年生総勢45名、いずみ会館で実施しました。日程は、サマーセミナーが終了後、自然科学探究について仮説を立てることを第一の目標として1・2年生全員で取り組みました。探究が終了した後、合宿希望生徒がそれぞれの班（食事班・調理班・部屋班・風呂班・レクレーション班）に分かれ活動しました。保護者の支援を受け、美味しいカレーができあがり、生徒たちは楽しそうに食事をとりました。レクレーションについては、○×ゲームから始まり、ビンゴゲーム、そして室内ドッジボールと大変盛り上がりました。

お風呂の後は、自学自習ということで熱心に就寝（11時）まで宅習に取り組んでいました。男子は会館の2階、女子は3階に寝床をとり11時には寝たはずですが？生徒はごろ寝の感覚、とても新鮮だったようです。22日は、なんと4時半に起きて勉強する生徒もあり、さすが附属中ここにありという感じでした。6時まで自学自習ということで、ほとんどの生徒が熱心に勉強に励んでいました。また、朝食は、お母さん方が作られた美味しい愛情たっぷりの豚汁でした。おかわりする生徒も多く、朝大勢で食べると本当に美味しいということも生徒は実感したのではないのでしょうか？本当に保護者の皆様、大きなご支援ありがとうございました。今回は、部活動等で参加できない生徒もいたので日程を十分に考えながら、計画を立てていきたいと思います。



- 夕食（カレーライス）
- レクレーション
- 自学自習 ○かき氷

今ある平和！「8月9日」

8月9日（月）は、**長崎原爆の日**だということは、皆さん知っていると思いますが、8月9日は平和について考えるということです。66年前に長崎に原爆が落とされ、多くの人の命を奪いました。原爆が落とされたこの日に、平和について考えることは価値あることだと思います。**今ある平和な社会は、多くの犠牲者の上に成り立っていることをよく理解し、私たち一人ひとりにできることは何か、お互いがどのように接していかなければならないのか、今の自分の生き方はこれでよいのかなど、考える機会になればと思います。**

右の写真を見て、どう思いますか。この写真は、「焼き場に立つ少年」という題がついた一枚の写真です。この写真は、米国の写真家ジョー・オダネル氏が、原爆で焼け野原になった長崎で撮った有名な写真の一コマです。皆さんもご覧になったことがあると思います。

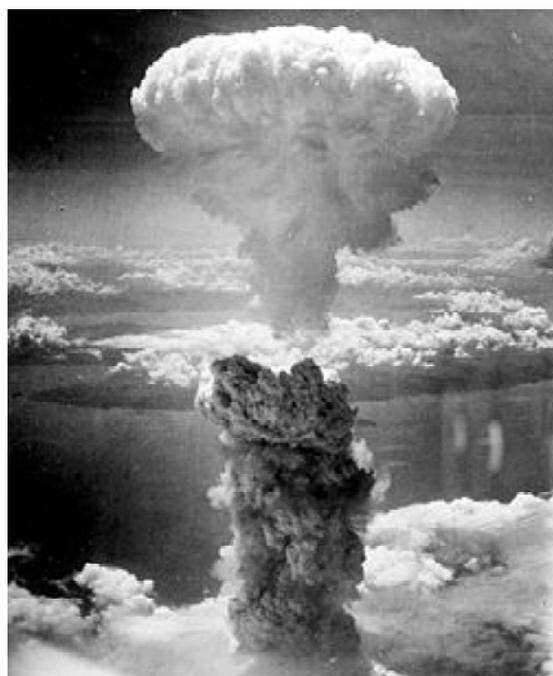
「すでに死んでいる幼子を背中にしょい、10歳くらいの少年が急ごしらえの焼き場で幼子を焼く順番を直立不動で待っている。白いマスクをした男たちがおもむろに近づき、ゆっくりとおんぶひもを解きはじめ、そして幼子の手と足を持ちゆっくりと葬るように、焼き場の熱い灰の上に横たえる。幼子が茶毘（だび）に付される様子を食い入るように見つめる少年の唇に血がにじんでいる。……」

10歳くらいで見るその光景は、その少年にとってどうだったのかうまく表現できません。唇から血がにじむほどにきつくかみしめながらも最後まで見届けるその少年の強さに畏敬の念を抱くばかりです。

ジョー・オダネル氏はこう言われています。「そばに行つてなぐさめてやりたいと思ったが、それもできなかった。もし私がそうすれば、彼の苦痛と悲しみを必死でこらえている力をくずしてしまうだろう。私はなす術（すべ）もなく立ちつくしていた」と。そして、奇しくも2007年の8月9日の長崎原爆記念日に、ジョー・オダネル氏（85歳）は亡くなられたということです。



焼き場に立つ少年



●長崎市への原子爆弾投下

第二次世界大戦末期の、1945年8月9日、午前11時02分にアメリカ軍が日本の長崎県長崎市に投下した。これは実戦で使われた二発目の核兵器である。この一発の兵器により当時の長崎市の人口24万人のうち約7万4千人が死亡、建物の約36%が全焼または全半壊した。



●広島市への原子爆弾投下

第二次世界大戦末期の、1945年8月6日、午前8時15分にアメリカ軍が日本の広島県広島市に投下した。これは実戦で使われた一発目の核兵器である。この一発の兵器により当時の広島市の人口35万人のうち約14万人が死亡したとされる。

